

校長の想い6月

自分の決めた道をまっすぐに進むために

季節は、うっとうしい梅雨の時期を迎えようとしています。皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申します。

さて、私が59歳の時、三宅島の行事で「OWS」（オープンウォータースイミング）に出場しました。「OWS」とは、海や川・湖といった自然の水の中で行われる長距離水泳競技です。

三宅島では、観光協会の主催で「阿古地区」の海で行っていましたが、私が参加した時は、阿古は、波が高く「伊豆・神着地区」の大久保浜に場所を変更して行いました。

私が参加したのは4人のリレーで、3つのブイで囲まれた三角形の周り500mをひとり一周して全員で2000mを競うレースでした。

泳ぎには自信がありましたが、まっすぐに泳げるかが不安でした。練習はすべてコースがはっきりしているプールで行っていたために、大久保浜の海は視界が悪く、コースロープもないのでどこを泳いでいるのかが分からないからです。前を確認できる泳法は、平泳ぎとバタフライですが、バタフライでは体力が持たないし、平泳ぎでは極端に遅くなってしまいますので私はクロールを選択しました。時々、前を確認しながら泳ぎましたが、まっすぐに泳ぐことができませんでした。私が大きくコースから外れるとライフセーバーの方が「曲がっていますよ」と教えてくれました。

そこで私はライフセーバーの方に、「前を見ないで泳いでいきますので、曲がったら教えてください。」とお願いしました。そこからは、まっすぐに泳いでいるのかを心配しないでただひたすら泳ぐことができ、ゴールすることができました。

人生でも脇目もふらずに目標に向かって懸命に生きていると、目標から大きく外れることがあります。

外れたことで結果オーライということもありますが、ゴールできないのはいただけません。そのような時には、人のアドバイスをよく聞くことが大切です。

謙虚になって、周りの声を聞くことが大切です。